

# 「日本舞踊」

夢の中でも  
稽古している自分がある

有限会社 スーパーあらい

代表取締役 **荒井 智和氏**



一なぜそれほど引き込まれたのでしょうか。

型にはまった所作が完璧にできたときの気持ち良さ、かな。一人で踊るのも面白いけど、複数で踊る演目で全員の息がぴったり合ったときの感激はひとしおです。終演後、ビデオを見ながら「ここ良かったね」なんて仲間と振り返る時間が楽しいし、家に帰って一人で悦に入ること(笑)。一曲わずか5分程度ですが、1番から3番まで全てマスターするまでが大変。寝ているときさえ曲が頭の中を回り、夢の中で最後まで踊れた頃、体が完璧に覚えて自然と動けるようになってるんです。子供でも大人でも、すごいなあと思わせる踊り手は気持ちの入り方が違う。目線の置き方、指先まで神経が行き届いた踊りを目にすると、より稽古に励もうとやる気が湧いてきます。

## Profile

■荒井 智和(あらい・ともかず)

昭和41(1966)年10月生まれ。愛知大学毕业後、都内の流通業及び長野電鉄不動産勤務を経て同社へ。平成23(2011)年11月から現職。宅地建物取引主任者、二級建築士。

■有限会社 スーパーあらい

昭和43(1969)年、「荒井商店」創業、平成23(2011)年11月から現社名。仕出し弁当部では長野市内でコンサートを行うアーティストへのケータリングを年間40～50件受注。



会員の趣味を紹介するシリーズ。第七回は有限会社 スーパーあらい 代表取締役の荒井智和さんに、日本舞踊の魅力を聞いた。

一日本舞踊の準名取として、  
地域や市内のイベントに引っ張りだこだそうですね。

平成16(2004)年に花房流(須坂市)に入門し、●年に「若房智和」の名を頂きました。桜祭りや夏祭りなど、地元・西三才の四季折々の行事のほか、稽古場がある栗田や芹田の祭り、愛好家が集まるイベントなど、年間計十数回のステージに出演。ジャンルは演歌や歌謡曲に合わせた「歌謡舞踊」で、最近では三山ひろしの「お岩木山」を稽古しています。

今年の舞台上で最も印象深いのは、2月に長野法人会東部支部のイベントで踊った、南かなこの「木遣り恋唄」ですね。照明のバランスが絶妙で踊りに集中でき、一緒に踊った70代女性との息もピッタリ。会場の皆さんがじっと見入って下さるのが感じられて、とても気持ち良かったです。

一日本舞踊を始めたきっかけは。

伯母が花柳流の師範をされていて、4～5歳から小学1年生頃まで、ごほうびのお菓子欲しさに稽古に通ったことがあります。それから三十数年経って、たまたま公民館の秋祭りで「よさこいソーラン」の踊り手に駆り出され、久しぶりに踊りって楽しいなあ……と。それをきっかけに、近所の人の誘いで花房流へ。過去にこれといった趣味はなく、30代で始めたゴルフやカメラも3年とは続かなかったのに、気づけば入門から13年。こんなに長続きするとは、自分でも驚いています。